
Fate/Darkness

KEI

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F a t e / D a r k n e s s

【Nコード】

N 3 9 3 3 0

【作者名】

K E I

【あらすじ】

全てが終わるとき、定められた滅びの場で彼は抗う。
抗いは世界を越え、彼は機会を得る。
それは希望となるか、絶望となるか。
彼はただ、願いと想いを胸に剣を振るう。

始まり

『世界』が消える

確かにそこに在った『世界』が

ならば、『彼女』が勝ったのだろうか

それとも創造主が勝ったのだろうか

『彼女』が勝ったのならば、『世界』という理を織り成す存在の消滅を意味する

つまり、『世界』の消滅

創造主が勝ったのならば、その絶望が履行される

すなわち、『世界』の消滅

どちらにしろ、『世界』は滅びる

そして、『彼女』と違い『世界』に付随する自分は…自分たちはやはり消滅する

創造主の絶望、このとき全ては決まっていた

遥けき過去、黙示録の日、人はその守護者に守られかろうじて生き残った

だが、そのときより定まっていた、人は所詮神々の気まぐれで生きていた

だから、気まぐれで滅びる

『彼女』だけが、輪廻外超生命体たる『彼女』だけが例外

力を求め、喰らい、奪い、それでも結局最後の場に立つことすら叶わなかった

所詮、この身は人だった

あとは、消え去るのみ

・

・

・

否

・

否、否、断じて否！！

この身は『神を穢す華やかなる者』！！

たかだか『理』如きに従う謂れは無い！！

そしてあの日あの時『彼女』に出会ったとき、その全て（の魔力）を手にすると決めたのだ

その自身に対する誓約を破るのか

最後の場へと向かう『彼女』に言っただけだ

「お前（の魔力）は俺のものだ!!」

と

いまだ『彼女』（の魔力）をものにせぬまま消える？

ありえない

相棒は、まだこの手に

魔導力は、十全

何より我が魔導の本質は神殺し、『世界』に抗する力

ならば、後は滅びの『理』を乗り越えるのみ

見る、診る、視る、観る

無が広がっていくこの『世界』を

そして見つける、綻びを

無に浮かぶ、この世界ではない『有』

無の切れ目に見える、外の外

そこへ『手』を伸ばす

伸ばして伸ばして、何かに触れる

『聖杯戦争』、『万能の器』、『サーヴァント』、『令呪』…

断片的な知識が流れ込む

初めて聞く、知識だけでまだ理解しきれないものもあるが…

『万能の器』、面白い、これならば

手にするための知識も流れて来ている、後は行くだけ

だが

動かない、動けない 動かせない

この期に及んで!!

『手』を伸ばす、『手』を伸ばす、『手』を伸ばす

そして、『手』をつかむ

『マスター』

また知識が来る

どうでもいい、後はこれを手繰り寄せていくだけ

引いて、引いて、引いて

だめだ、相手が此方に堕ちてくる

脆弱な！！ならば！！

『手』を伸ばす、『世界』の外へ

『手』を伸ばす、『無』の果てへ

『手』を伸ばす、彼方の『世界』へ

そして、その縁に『指』がかかる

『力』を込めて、『力』を込めて、『力』を込めて

向こうへ！！

「何、これ」

聖杯戦争に備え、最高の時、最適の場でかつての英雄たる『英霊』を呼び出そうとした。

彼女、遠坂凜にとってそれは出来て当然のことのはずだった。

英霊召喚の儀式は滞りなく進んでいたはずだ、それがいいよ魔術が発動という段になり『手』を掴まれた。

肉体ではない、英霊の座に伸ばす何かとでもいうのだろうか、それを掴まれたのだ。

そしてそれは、引きずり込もうとする。

どこへ？

分からない。

分かることは、否感すること唯ひとつ、そこに自分というものの重要な何かが墮とされるということ。

抗し切れなければ、死ぬ。下手をすれば死ぬことのほうがまだ幸せな状況になる。

だから全力で抗うのだが、魔力は尽きかけている、遠坂が伝える刻印までもその半分を犠牲にしている。

それなのに、彼女の何かが堕ちる、喰われる、抹消されそうになっ

ている。

それに恐怖を覚える、死ぬのならばいい、魔術師たる彼女にとって死は常に傍らにあった。

だが、これはそんな生易しいものではない、抗し切れなければ存在の欠辺まで無意味にされる。

魔術師が何も残せない、これ以上の恐怖は無い。

不意に、引き寄せる力が弱まり何かが近づいてくる。

何が？

分からない、だがこれが最後の好機。

いまだ『手』を掴む何かを、彼女は全力で此方に引き寄せる。

彼女を通して、大きな力がその何かに枷を掛けようとしているが気にする余裕は無い。

一刻も早く、何かを引き寄せる。

そして精根尽き果てると同時に、彼女は何かを此方へと現界せしめた。

闇にある輝き、月光を宿した銀髪。

海でも空でもない、闇を薄めた深き蒼の瞳。

黒きマントの下には、銀で縁取られた闇色の胸鎧、その下に黒い口
ーブ。

手には恐るべき神秘を宿した魔剣が一振り。

それが倒れいく瞬間彼女が見た何かの姿、『神を穢す華やかなる者』
だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3933o/>

Fate/Darkness

2011年1月16日03時07分発行